



罹災救助基金法案



114  
A 2627



罹災救助基金法

第一條

府縣ハ罹災者救助ノ資ニ供スル爲メ罹災救助基金ヲ貯蓄スヘシ

第二條

罹災救助基金ハ府縣ノ全部又ハ一部非常ノ災害ニ罹リタルトキ救助ノ爲メ支出スルモノ

トス

災害ノ區域府縣ノ全部又ハ一部ニ涉ラザルモ多數ノ人民同一ノ災害ニ罹リタルトキハ府縣會ノ

議決ヲ經テ罹災救助基金ヲ以テ救助スルコトヲ得

第三條

罹災救助基金ハ府縣稅府縣制ヲ施行セサル地方ニ在テハ地方稅及國庫補助金ヲ以テ成立スルモノトス

罹災救助基金ヨリ生スル收入ハ總テ罹災救助基金ニ編入スルモノトス

府縣ハ臨時他ノ收入又ハ寄附ノ金穀物品ヲ罹災救助基金ニ編入スルコトヲ得

第四條

府縣ハ罹災救助基金貯蓄ノ爲メ直接國稅ノ附加稅ヲ徵收スル場合ニ於テハ他ノ法律ヲ以

テ定メタル制限ノ外百分ノ三以内ノ附加税ヲ課スルコトヲ得

二

第五條 國庫ハ此ノ法律施行ノ後十箇年間罹災救助基金ノ補助トシテ毎年金三十萬圓ヲ支出シ府縣ニ於テ毎年度罹災救助基金ニ繰入レタル金額ニ割合ヒ之ヲ交付スヘシ

第六條 府縣ニ於テ罹災救助ノ爲メ罹災救助基金ノ年度初ノ現在高百分ノ五以上ヲ支出シタルトキハ國庫ハ罹災救助基金ヲ補充セシムル爲メ其ノ超過額ノ三分ノ一ヲ府縣ニ交付スヘシ

第七條 各府縣ニ於テ貯蓄スヘキ罹災救助基金額ハ五十萬圓以上トシ明治二十年度以降十箇年間ニ備荒儲蓄法ニ依リ支給シタル平均年額ノ二十倍以上ニ達スルヲ要ス

第八條 救助ノ爲メ罹災救助基金ヲ支出スヘキ種目左ノ如シ

一 食料費

二 被服費

三 治療費

四 小屋掛費

五 就業補助費

六 納税金ノ補助及貸與

第九條 食料費ハ罹災ノ場合ニ必要ナル焚出ヲ爲シ又ハ罹災ノ爲メ自ラ生存スルコト能ハサル貧民ニ食品ヲ給與又ハ貸與スル費用ニ供スルモノトス

第十條 被服費ハ避難所等ニ在ル貧民自ラ被服ヲ給スルコト能ハサル場合ニ衣服ヲ給與シ又ハ一時夜具等ヲ貸與スル費用ニ供スルモノトス

第十一條 治療費ハ罹災ノ際一時治療ヲ施シ又ハ罹災ノ貧民自ラ治療費ヲ辨スルコト能ハサル者ニ藥品其ノ他必要ナル治療品ヲ貸與スル費用ニ供スルモノトス

第十二條 小屋掛費ハ罹災ノ爲メ家屋亡失潰倒大破又ハ浸水シ自ラ居處ヲ營ムコト能ハサル者ニ小屋掛ヲ爲シ又ハ小屋掛ヲ爲スヘキ材料ヲ給與スル費用ニ供スルモノトス

三

第十三條 就業補助費ハ罹災ノ爲メ産業ヲ失ヒ自ラ其ノ業ニ復スルコト能ハサル貧民ニ必要ナル材料器具ヲ給與又ハ貸與スル費用ニ供スルモノトス

第十四條 食品、藥品、治療品及材料器具ヲ貸與スル場合ニ於テハ其ノ代價ヲ見積リ現金ヲ以テ交付スルコトヲ得

第十五條 左ノ場合ニ於テハ其ノ納税金額ノ全部又ハ一部ヲ補助若クハ貸與スルコトヲ得

第一 地租納税者ニシテ罹災ノ爲メ他ニ收入ヲ得ルノ途ナク其ノ所有ノ土地又ハ家屋ヲ賣却スルニ非サレハ納税義務ヲ果スコト能ハサルトキハ地租及其ノ附加税

第二 國税ノ營業税納税者ニシテ罹災ノ爲メ營業税法第三十一條ニ依リ減税セラレタル者他ニ收入ヲ得ルノ途ナク營業ノ資本ヲ以テスルニ非サレハ納税義務ヲ果スコト能ハサルトキハ營業税及其ノ附加税

其ノ他直接府縣税府縣制ヲ施行セサル地方ニ在テハ地方税直接市町村税ハ府縣會ノ議決ヲ經内務大臣大藏大臣ノ認

可ヲ得テ前項ニ準スルコトヲ得

第十六條 郡市町村其ノ他公共團體ニ於テ救災ノ方法ヲ設ケ資金ヲ貯蓄スルトキハ府縣知事ハ府

縣會ノ議決ヲ經内務大臣大藏大臣ノ認可ヲ受ケ罹災救助基金ヨリ補助ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ府縣知事ハ其ノ資金監督ノ方法ヲ設ケヘシ

第十七條 罹災救助基金ノ管理支出又ハ復原ニ關スル方法ハ府縣會ノ議決ヲ經内務大臣大藏大臣ノ認可ヲ受ケヘシ

第十八條 罹災救助基金保管ノ方法ハ當該官吏ニ於テ現金ヲ保管スルノ外左ノ範圍ヲ出ルコトヲ得ス

- 一 國債證券地方債證券ヲ買入ルルコト
- 二 給與品貸與品ヲ買入ルルコト
- 三 大藏省預金ニ預入ルルコト

四 確實ナル銀行ニ當坐預定期預ヲナスコト但シ罹災救助基金總額ノ十分ノ一ヲ超ユルコトヲ得ス

五 法律勅令ノ規定ニ依リ貸付又ハ繰替支出ヲナスコト

第十九條 罹災救助基金ノ管理ニ關スル直接ノ費用ハ府縣會ノ議決ニ依リ罹災救助基金ヲ以テ支辨スルコトヲ得但シ事務費及物品貯藏ニ要スル土地建物ノ費用ハ罹災救助基金ヲ以テ支辨スルノ限ニアラス

第二十條 罹災救助基金ノ出納ハ內務大臣又ハ大藏大臣隨時之ヲ検査スヘシ

第二十一條 罹災救助基金ノ收支ニ關スル豫算決算ハ內務大臣大藏大臣ニ報告スヘシ

第二十二條 此ノ法律ハ明治三十年四月一日ヨリ二十箇年間之ヲ施行ス

附則

第二十三條 明治十三年第三十一號布告備荒儲蓄法ニ依リ從來各府縣ニ於テ積立タル府縣儲蓄金

ハ總テ罹災救助基金ニ繰入ルヘシ

第二十四條 此ノ法律ハ沖繩縣ニ之ヲ施行セス別ニ勅令ヲ以テ其ノ制ヲ定ム

第二十五條 明治十三年第三十一號布告備荒儲蓄法及中央備荒儲蓄金ノ運用ニ關スル明治二十三

年法律第三十三號ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ廢止ス

罹災救助基金法案理由書

現行備荒儲蓄法ハ明治三十三年ヲ以テ施行期終了スルモノナルニ本年ハ三陸ニ海嘯ノ災アリ尋テ新潟、岐阜、滋賀、福井等ノ諸縣下ニ風水ノ害アリシニ由リ救助費多額ヲ要セシ爲メニ中央備荒儲蓄ノ資金ハ將ニ支出シ盡サントスルノ狀況ニシテ將來本法ヲ持續スル能ハサルニ至レリ然ルニ府縣ノ貯蓄金ハ未タ以テ獨立シテ罹災救助ヲ行フニ足ラス依テ更ニ二十箇年ヲ期シ各府縣ニ基本金ヲ備ヘシメ將來獨立自治ノ基礎ヲ作爲セシムルノ必要アルヲ認メ茲ニ本案ヲ提出ス

